

平成23年度採択 文部科学省博士課程教育リーディングプログラム
「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」
平成25年度 外部評価委員会を開催しました

平成26年2月15日「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」の平成25年度「外部評価委員会」を広島市内で開催しました。

外部評価委員は昨年と同じく、国内からは柴田徳思氏（公益財団法人日本アイソトープ協会常務理事）、長瀧重信氏（公益財団法人放射線影響協会理事長）、宮川清氏（東京大学大学院医学系研究科教授）、山下隆氏（中国経済連合会会長）、海外からはDr. Jacques Lochard（国際放射線防護委員会（ICRP）第4委員会委員長）、Dr. Rethy K. Chhem（国際原子力機関（IAEA）健康部長）、Dr. Tom K. Hei（コロンビア大学教授・放射線腫瘍医療センター副所長）、Dr. Albert Lee Wiley（オークリッジ放射線緊急時支援センター/訓練施設（REAC/TS）医療・技術理事）ら計8名の教育機関、研究機関、国際機関、産業界からの研究者、有識者をお願いしました。

岡本哲治プログラム責任者による開会の挨拶、神谷研二プログラムコーディネーターによる平成25年度の本プログラムの取り組みの紹介に引き続き、昨年度の外部評価委員から改善指摘を受けた項目の改善状況について、改善進捗状況報告書及び資料集に基づき説明を行いました。また、各委員からの質問や評価に対して活発な意見交換が行われました。本委員会では、世界に類を見ない新しい人材育成プログラムとしてスタートした本プログラムが、2年目を迎え様々なカリキュラムを順調に実施しているとの高い評価を受けました。特に短期フィールドワークやショートフィールドビジット、IAEAでの短期インターンシップ、2回のリトリート等の実践的な事業の実施は非常に高い評価を受けました。さらに、外国人留学生への日本語教育の必要性、本プログラム独自の学位名称、さらなる実践的教育活動の充実などの助言を受け、本プログラムの方向性についても大きな示唆を得ました。本委員会の評価に基づき、今後本プログラムの更なる改善・改良を進めます。



外部評価委員会の様子：岡本プログラム責任者（中央右側）、神谷プログラムコーディネーター（中央左側）